

2026.4  
APRIL  
No.33

高知大学医学部附属病院広報誌  
隔月刊 [おらんくの大学病院]

# RANK



県内医療機関との連携強化で、  
「地域完結型医療」の構築を

病院長 / 内科(老年病・循環器) 教授 北岡 裕章

対談 医学部長 井上 啓史 附属病院長 北岡 裕章  
医学部の未来に向けて

RANK

2026.4 APRIL No.33

高知大学医学部附属病院広報誌  
隔月刊 [おらんくの大学病院]

[発行日] 2026年4月1日 [発行] 高知大学医学部附属病院 総務企画課 総務・広報係 〒783-8505 高知県南国市岡豊町小蓮 Tel.088-880-2723

# 50<sup>th</sup> ANNIVERSARY

高知大学医学部・旧高知医科大学開学

from 1978 to 2028



高知大学医学部は、  
2028年に開学50周年を迎えます。  
高知大学医学部開学50周年記念サイト  
<https://www.kms-50th.jp>



高知大学医学部附属病院



<https://www.kochi-u.ac.jp/kms/hspt/>

# 県内医療機関との連携強化で、「地域完結型医療」の構築を

高知大学医学部は、1978年4月に高知医科大学として開学し、2028年に50周年の節目を迎えようとしている。4月に第12代病院長に就任した北岡新病院長から、本院の展望や未来像について伺った。

北岡病院長は本学に5期生として入学し、卒業後は長く本院で勤務され、2018年からは副病院長、医療学系長を歴任されています。2026年4月に、病院長に就任され、感慨もひとしおと思われますが、現在のお気持ちを聞かせてください。

長年、本院で診療・教育・研究に携わってきましたが、思いがけず母校の病院長という重責を拝命し大変光栄であると同時に、責任の重さにただただ身の引き締まる思いです。本院は地域医療の中核を担う大学病院であり、高度医療の提供はもちろん、優れた医療人の育成や医学研究の推進という重要な使命を担っています。開学50周年の節目を迎えるにあたり、本院が築いてきた伝統と実績を大切にしながら、次の

50年に向けてさらなる発展を目指していきたいと考えています。続いて、先生のご専門と本院の現在について教えていただけますか。

私の専門とする循環器内科は皆さんにも馴染み深い心臓の疾患である心筋梗塞、心不全、弁膜症、不整脈などを取り扱います。私は主に心筋梗塞などに対するカテーテル治療、心不全、またその原因として重要である肥大型心筋症や心アミロイドーシスに取り組んできました。一方、老年病学は、高齢者に特有の疾患や身体・精神機能の変化を総合的に研究し、診断・治療・予防・生活支援を行う医学分野であり、高知医科大学開学当初から老年病学講座を設置しています。この分野は特に高齢者を全人的に診ることが

特徴で、最近ではポリファーマシー（多剤服薬）やフレイル（介護が必要となる前段階の状態）対策が重要なテーマとなっています。

## 高知県の医療水準向上と「健康長寿県構想」の貢献を本院の使命として

本院は高知県唯一の大学病院であり、高度先進医療の最後の砦としての役割を担ってきました。ひき続き高度急性期医療や先進的医療の提供を行うにつれ、医師会の先生方や地域の医療機関との連携を深め、県全体の医療水準の向上および日本一の健康長寿県構想に貢献することが、重要な使命であると考えます。



救急救命士と語らう

高知県は全国でも高齢化率が高く、救急医療体制の充実が極めて重要な課題です。本院は、救急患者の受け入れを24時間体制で行っており、近年は、救急救命士2名が在籍するなど体制が強化され、現在は年間3,000件を超えています。この件数は四国の大学病院の中で最も多くなっています。今後、高度な専門的治療を必要とする急性期医療において、大学病院としての専門性を活かしながら対応していきたいと考えています。また、地域の医療機関との役割分担を明確にしながら連携を強化し、高度急性期医療を担う拠点機能をさらに高める必要があります。

そこで、災害医療への対応や救急医療を担う人材育成などにより県全体の救急医療体制の質の向上に貢献していきたいと考えています。高知県では人口減少や高齢化に加え、医師や看護師など医療従事者の不足、若手医師の診療科の偏在、さらには経営環境の厳しさによる医療機関の閉院などにより、地域によっては医療提供体制の維持が難しくなりつつあります。特に中山間地域での診療所不足や医師の高齢化、救急医療を含めた「医療へのアクセス」確保が大きな課題となっています。このような状況下で大学病院に求められる役割も大きくなっています。そのため、遠隔医療の活用や医療DXの推進などを積極的に導入し、県や関係機関と連携しながら地域医療資源を有効に活かした持続可能な医療体制が必要とされます。また、高齢化率が高く医療従事者不足の課題も抱えている本県での医療体制は、地域に即した

## 高知県の医療を将来にわたって、持続可能なものとし、県民の皆様が安心して医療を受けられる体制づくりに取り組んでいく

限られた医療資源を有効に活用するためには、地域の医療機関同士との連携と役割分担が必須となります。急性期医療は基幹病院が担い、回復期・慢性期、在宅医療は地域の医療機関と協力して支えていく「地域完結型医療」の構築が重要であると考えています。

一方で、医療機関との連携強化を図りながら、若手に注目されるワーク・ライフ・バランスを重視した医療人の育成にも力を入れていきたいです。

これまで、病院および医学部運営に関わる中で、多くの職員の皆様

高齢者医療の本質は、急性期医療だけでなく切れ目のない医療を提供し続けること

病院長／内科(老年病・循環器) 教授

## 北岡 裕章

(きたおか ひろあき)

### 【経歴】

1988年 高知医科大学 医学部 卒業、同大学 老年病科 入局

1990年 須崎くろしお病院 内科

1991年 国立循環器病センター 内科心臓部門レジデント

2009年 高知大学老年病・循環器・神経内科学 講師

2010年 高知大学老年病・循環器・神経内科学 准教授

2013年 高知大学老年病・循環器・神経内科学 教授

2016年 高知大学老年病・循環器内科学 教授

2018年 高知大学医学部附属病院 副病院長(兼) [~2020年]

高知大学教育研究部 医療学系長(兼) [~2022年]

2024年 高知大学医学部附属病院 副病院長(兼)

2026年 高知大学医学部附属病院長

### 【専門分野】

虚血性心疾患、心不全、心筋症、高血圧、老年病学

### 【専門医等資格】

日本内科学会総合専門医、日本循環器学会専門医、CVIT認定医、高血圧専門医、日本老年病専門医



高知医科大学時代 ポリクリ終了後(右から3人目)



須崎くろしお病院にて(医師3年目)

- 趣味 土佐の歴史を訪ね歩くことが好きで、時間に余裕がある時には本院裏手の岡豊山の散策を楽しんでいます。
- 好きなもの／好きなこと 読書、車、ライブ鑑賞
- 信条 "If I try my best and fail, well, I tried my best." 「ベストを尽くして失敗したら、それはベストを尽くしたってことさ」 by Steven Paul Jobs



医学部長／泌尿器科 教授

## 井上 啓史 (いのうえ けいじ)

- 【経歴】**  
 1989年 高知医科大学 医学部 卒業  
 1994年 高知医科大学大学院 卒業(医学博士)
- 1996年 高知医科大学 泌尿器科 助手  
 1997年 テキサス州立大学 MDアンダーソン 癌センター-癌生物学科リサーチフェロー  
 2002年 高知医科大学 泌尿器科 講師  
 2005年 高知大学医学部 泌尿器科学講座 助教授(准教授)  
 2013年 東京工業大学 非常勤講師(兼任)、骨盤機能センター 部長(兼任)  
 2016年 高知大学医学部 泌尿器科学講座 教授 現職  
 高知大学医学部附属病院 透析部 部長(兼務)  
 千葉大学フロンティア工学センター 特別研究教授(兼任)
- 2020年 高知大学医学部 光線医療センター長(兼務)  
 2021年 高知大学医学部附属病院 次世代医療創造センター長(兼務)  
 2023年 大阪大学 工学研究科 招聘教授(兼務)  
 2024年 高知大学 医学部長(兼務)

- 【専門分野】**  
 泌尿器腫瘍学、光線力学
- 【専門医等資格】**  
 日本泌尿器科学会専門医・指導医、泌尿器腹腔鏡技術認定医、日本内視鏡外科学会技術認定(泌尿器科領域)、日本癌治療認定医、ロボット支援腹腔鏡下手術技術認定、ロボット支援腹腔鏡下手術プロクター(指導医)認定

もちろんです。私も全く同感で、病院長からの言葉は本當にうれしいうれしい限りです。ぜひ、共に取り組んでまいります。



医学部長 井上 啓史 対談 附属病院長 北岡 裕章

# 医学部の未来に向けて

本学の卒業生である北岡新病院長と 井上医学部長が、それぞれの立場から 高知大学医学部の50年を振り返るとともに、今後について語り合った。

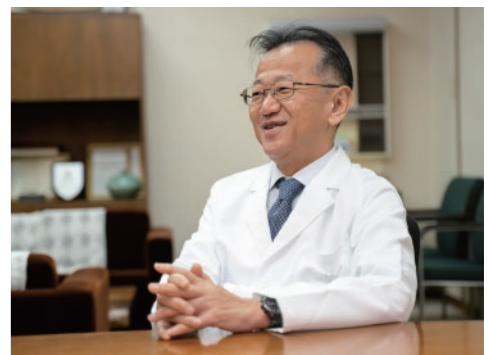
医学部長室にて

北岡 振り返ると、私の学生時代は覚えるべき医学的知識が今ほど多くはなかった分、教官の研究内容や先端的な医学の講義が主体で、医師になるための土壌をしっかりと学べたと記憶しています。ぜひ、知識や技術だけでなく、患者

北岡 振り返ると、私の学生時代は覚えるべき医学的知識が今ほど多くはなかった分、教官の研究内容や先端的な医学の講義が主体で、医師になるための土壌をしっかりと学べたと記憶しています。ぜひ、知識や技術だけでなく、患者

す。一方で、現在の学生たちは、習得すべき医学的知識が格段に増えています。知識を得るスピードや情報へのアクセスは、我々とは比べものにならないほど優れている反面、じっくり考える機会や物事の本質を議論する時間も限られているように感じています。高知大学医学部の学生たちにはぜひ、知識や技術だけでなく、患者さんに寄り添う姿勢や物事の本質を学んでいただきたいと切に願っています。

医学は知識だけで完結するものではなく、人と向き合う中で深まっていく学問でもあり、大学としても、実践的な学びの機会を提供しつつ、地域とともに成長できる医療人育成に重きを置くことが大切ですね。



今回、病院長という立場から、改めて大学病院として地域医療を支え、次世代の医療人を育成し、医学の発展に貢献していくという使命感をひしひしと感じています。

井上 医学部長も本学の卒業生でいらっしゃるようですが、いかがでしょうか。

井上 学生時代の懐かしさはもちろんですが、高知医科大学で学び高知県の医療に従事してきた感謝が第一にあります。今再び母校の高知大学医学部を起点として、ふるさと高知のために教育(人づくり)、研究(未来の人のため)、臨床(目前の人のため)に取り組ませていただいている喜びも大きいです。高知への恩を

医療を支え牽引していく高知ブランドの医師、看護師、医学研究者を四国高知から世界に向けて輩出したいと考えています。

本学からは、建学の精神である「敬天愛人」「真理の探究」のもと、開学以来5,700名以上の優れた医療人を輩出し、国内外においても数多くの卒業生が活躍しています。そして2028年には、学生および教職員とともに、「高知大学医学部・旧高知医科大学開学50周年記念事業」として医学部会館(通称がっかん)の増築・改修を計画しています。長きにわたり支えていただいた卒業生とご家族、さらには地域の皆さまに感謝しつつ、志を新たに次世代の医療人育成強化に向け一層の飛躍を目指してまいります。

返しのために全力を尽くし、高知大学をさらに進化させ、発展と飛躍へ努力と挑戦を続ける覚悟です。

在学当時、私は高知医科大学6期生でしたから、開学から間もないこともあり、「これから我々学生たちが、一丸となって学風を作り上げるんだ!」という気概が大学中に満ち溢れていましたね。自ら一定の節度は保ちつつ、良くも悪くも、破天荒で魅力的な教員や学生が多く、期待に胸躍らせていたことを思い出します。

この節目に、あの時代の人間味溢れるキャンパスに帰帰すべく、新たな気持ちで次の一步を踏み出したいですね。

井上 医学部長、今後の抱負をお願いします。

井上 高知大学医学部は、「学生も教職員も地域も、ともにワクワクできる学びの場、高知大学医学部」をキャッチフレーズに掲げて、先進的な医学教育および医学研究を推進すべく、様々な取り組みを行ってきた歴史があります。

取りわけ、「先端医学」と「地域医療」という現代社会が求める2つの大きなテーマを基軸に、未来の最後は、北岡病院長からメッセージをお願いします。

北岡 組織の礎は「高度な医療を提供し、高い見識を持った医療人を育成する。」「先進医療を推進し、医療の革新に挑戦する。」という理念にあります。そして、この理念を掲げることができる医療機関は、県内には我々の病院しかありません。だからこそ「高知県の高度先進医療の砦」としての矜持・プライドをもって働いて欲しいのです。多くの医療人が互いに尊重し合い、力を合わせることで、この困難で不確実な時代を乗り越え、新しい時代を切り開くことが必ず出来るはず。そのために病院長としてスピード感を持って環境整備と支援をしてまいります。



医学部開学50周年記念事業案内リーフレット

